

業務部速報



No. 149

発行 22. 3. 25

JR東労組 業務部

申26号 組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、2022年度賃金引上げ等に関する

緊急再申し入れ 第1回交渉①

□3月25日、中央本部は申26号交渉第1回交渉を行いました。交渉では、第3回交渉以降、中央本部に届いた6447件の組合員の声に基づき、会社と議論を行ってきましたが、交渉時間が限られていたため、継続議論となりました。

組合員から「経営が厳しいというのは分かっているが、何故ベア0なのか説明が不十分」という声を頂いた。まず、回答書の会社の認識について伺いたい。

*** 組合の主な主張の赤字は、中央本部に寄せられた組合員の声です！**



赤字の責任を職場に転嫁しているのではないか！

施策に協力して過去にない働き度になっている／赤字の幅を縮めたのは我々現場の頑張り／この状況で感染リスクに備えながら働いている私達を評価してほしい／赤字だけがクローズアップされて、社員の努力で赤字が少なくなっているのにそこは見えてくれない／黒字を目指す為に様々な施策に向き合っているのは現場で働いている社員だ

社員1人ひとりの皆さんの増収活動、コストダウン、様々な取組みによって赤字幅は前年度より縮小している。奮闘については、感謝申し上げます。

赤字から脱却するために稼ぐのは現場の社員だと言うことが、理解されていると思えない

しっかりと会社として、持続的な成長が出来る状況に持って行かなければならない。

赤字の解消に向けて、社員に辛抱させているしか思えない。赤字から脱却するには何が必要か

今の状況が良いという状況とは思っていない。好循環を生み出していきたい。

赤字は会社の経営問題だ。その責任を労働者に転嫁していないか。赤字の責任はどこにあるのか

予期せぬ新型コロナウイルス感染症の拡大によって、様々な奮闘したが、赤字という厳しい状況にある。

会社幹部がどれだけ身をきっているのか

役員報酬は昨年5月以降10%を超える自主返納。業績連動報酬は、2021年度では全く無し。コロナ禍前と比べて、3割から4割減少している。

このような意見があることを重く受け止めていただきたい。

様々な声があるのは受け止める。

有利子負債をベアゼロの理由にするのは間違いだ！

組合の主な主張

会社の主な主張

連結の長期債務は、2002年時点4兆3798億円・平均金利4.09%。現時点4兆6892億円・平均金利1.32%だ。年間の利払いは20年前は1873億円、現在は3分の1の619億円だ。どこが20年前の水準と同じなのか。

支払金利の額が減少しているのは事実。有利子負債の額が20年前の水準に戻った。

負債を何故好調時期に減らさなかったのか／返済計画の甘さはないのか

適切な返済をしてきた。

負債がなくなるまでベア出さないつもりなのか

ベースアップは、有利子負債と直結するものではない。

赤字額をはるかに上回る有利子負債だ。投資に使っている。

投資、日々の社員への給料、取引先への支払い全てキャッシュだ。その確保するために、CP・社債を発行した結果、このような状況になった。

利払いが3分の1。純資産が2倍以上。当時と同じベアを出すべき。有利子負債の中に投資が含まれている。この組合員の声を受け止めて頂きたい。

社員の意見として受け止める。有利子負債額が20年前と同程度に戻っている。かつ財務的に悪化しているのが事実としてある。

今こそ内部留保を還元するべきだ！

なぜ経営が好調だった時代に内部留保が増加されベアゼロが続いたのか説明してほしい／お客様は戻ってきているし、内部留保も充分にあるはず、今還元しないでいつするのか

この間、黒字経営を果たしてきてコロナ禍を迎えた。財務体質の基盤をつくっていたからこそ、赤字を計上したが事業運営が出来ている。内部留保は帳簿上の話であり、同額の現金があるわけではない。

出さない理由や赤字の危機ばかりが先行している／回答書にマイナス要因ばかりで保有資産が抜けている／何故回答書に記載がないのか

全て経営状況などを網羅するのは、現実的ではない。